

健康ウォッチング 東陽病院 副院長 伊藤 文憲

肝硬変とは

横芝町の皆さん今日は。今回は肝硬変についてお話しします。肝硬変とはその字の如く肝臓が硬くなることによりその働きが低下する病気です。原因は前号に述べたウイルスによる慢性肝炎が進行したものが大半です。慢性活動性肝炎から肝硬変への進展は徐々に進行し、境界はつきりしません。肝炎が進行すると肝臓の中で炎症による組織の破壊と再生が繰り返行われて、徐々に繊維化が進み、結果として肝臓が硬くなります。その重要な働きである蛋白合成や解毒作用の低下が見られます。また肝臓が硬くなると、消化管から肝臓に栄養を運ぶ血管である門脈が肝臓を通らずに別な道を通れることにより栄養障害や、血管が拡張し食道静脈瘤や痔核（直腸静脈）を起こし、その出血の危険性が生じてきます。

して長期維持するかが現在の診療の重要点です。労働の制限・禁酒や毎日の生活を規則正しくし十分な睡眠を取るなど生活の節制と、肝機能を落着かせる薬の内服が大切です。また合併症の予防のために定期的な検査（胃内視鏡・腹部エコー・腹部CT検査など）が必要です。進行した肝硬変では、血液中の蛋白が低下し、全身の浮腫や腹水などが起こります。解毒作用の低下により血液中的アンモニアなどが高くなり意識障害も見られます。また、肝組織が破壊と再生を繰り返しているうちに悪性腫瘍が発生することもあります。肝機能が悪化し、腹水や浮腫が生じた場合は、入院安静が第一です。利尿剤が投与されますが、蛋白質の低下に伴う場合には尿は出にくく、点滴により蛋白製剤を補給することが必要となります。高アンモニア血症による肝不全の対策として内服又は点滴によるアミノ酸製剤も有効です。また、出血性胃炎や食道静脈瘤の破裂による出血に対しては内視鏡的な治療により止

血が可能となっています。

現在の肝硬変の診療に際しては肝細胞癌の発生に対する早期発見と治療がもっとも大事なことです。肝細胞癌の時に述べますが、小さな癌であれば内科的な治療が可能になっています。早期発見のためには定期的な肝臓内の画像診断が必要であり、腹部エコー検査が最も簡便で有効性があります。3～4ヶ月ごとの検査がベストです。異常な肝臓内の影が見えたらCT検査やMRI検査にて確認し、治療を行います。

以上述べたように肝硬変にはいろいろな時期があり、それぞれの対策がとられるようになっております。定期的な通院により、検査を行い適切な判断をするためにも肝臓の専門医やそれと連携した医師にかかることが最も重要なことでしょう。

母親学級開催

とき 4月26日(金)

午後2時

場所 東陽病院

対象 制限はありません

文芸

俳句

夕闇に吐息の如き虎落笛 もがりぶえ

浅野 茂子

野火つけて農夫次々畦走る

池田 逸子

駅までのぬけ道となる枯野かな

伊藤 敬子

冬の日や平斧削りの太柱

岡田 雅美

薬しべをくの字への字に薄氷

勝又 和徳

冬雷が轟きわたりまた光る

向後 寛

寒明をひたすらに待つ臥す身かな

土屋 栗水

通院の日々に二月の過ぎ易く

藤代 ゆう

春著着て一番似合ふ茶髪娘

渡部 和秋

冬ばらを活けて一人の句座とせり

選者 鈴木 草庵

短歌

老いたれど気持だけでも若くもち

石井 ユク

日々を明かるく生きんと思ふ

玉堂 拙

屋根に置く雪の重みも伝ひきぬ

秋葉 悦子

先に逝く不幸を母に詫びる遺書

吉岡 信子

挿し木せし亡姉のゐませる心地して
開きそめたる沈丁花に寄る

池田 春江

来年の種を根方にちらばせて
枯れたる紫蘇の冬畑に立つ

宇井 ちい

星座みな定まる位置に輝やけり
故里甲斐の二月の空は

佐瀬 初音

先生の教へを守り小三の孫
雨降る中を歩いて行きぬ

鈴木 やす

天つ日の光りの中に鎌を打つ
春の畑の土やはらかし

押尾 輝子

冬物のセールの旗が浮き浮きと
小春日和の風にはためく

八角 三枝

桜咲く河津七滝めぐり来て
踊り子館に三昧の音をきく

萩原 信一

朝刊は先づコラムより読む慣ひ
練達の記者思ひ浮かべて

土屋 栗水

朱をおびし細かき霧の立つも見え
火影のもとに蜜柑剥きあつ

選者 斎藤つね子

